



生きものの調査・保全活動での使い方

調査地点を地図に置き、見つけたものをその場で記録する。写真と日時と記録者が一緒に残るので、活動報告の裏づけになります。会員やボランティアと同じ地図を共有できます。

対象バージョン 1.0.8

調査も、痕跡も、採集も。ひとつの地図の上に。

マップセット

○○里山 2026年度

調査地をまとめる入れ物。
区域や年度ごとに 1 つ作ります。

ポイント（場所）

定点や区域の目印になる、動かない場所


湿地 定点A

調査地点 / 番号 01


杉林の獣道

痕跡地点 / 番号 08


南斜面の群落

外来種対応地点 / 番号 12

記録（その場所で起きたこと）

1 つのポイントに、何件でも積み上がる

4/12

目撃・発見

サシバ 2

5/3

痕跡

足跡 / 新しい

6/8

採集

ゲンジボタル 12

7/2

外来種駆除

オオキンケイギク

地図に出るのはポイントのピン。記録はピンをタップして時系列で読みます。場所に紐づけない記録は、小さな円で地図に出ます。

残したい場所を、9 種類から選んで置く。

定点調査の地点、痕跡の見つかる場所、外来種の群落。活動で通う場所をそのまま地図に置けます。

調査地点

定点観察・モニタリングで通う地点。番号を振っておくと、年度をまたいでも同じ地点として追えます。

目撃多発地点

その生きものがよく現れる場所。目撃の記録を同じ地点に積み上げていけます。

痕跡地点

足跡・糞・食痕が見つかる場所。同じ場所の痕跡を続けて残すと、季節ごとの変化が並びます。

採集ポイント

植物・昆虫・キノコなどを採集する場所。分類と数量まで記録に残せます。

釣りポイント

水辺の調査地点として。魚・貝はサイズも一緒に残せます。

外来種対応地点

防除に入る群落や定着地。実施のたびに記録が積み上がります。

被害地点

食害や踏み荒らしなど、被害が出ている場所。内容と推定原因を残せます。

危険・注意地点

崩落・蜂・悪路など、参加者に知らせたい場所。共有すれば全員の地図に出ます。

その他

集合場所、駐車場所、観察路の入口など。活動に必要な場所は何でも置けます。

位置は「現在地」を押すだけ。あとは残したいことを足す。

ポイントを追加

調査地点名

湿地 定点A

位置



現在地を使う

地図で指定もできます



写真を付ける

プランに応じて 1~10 枚

説明

木道の終点から左手。水位が高いときは近づけない。
ヨシ原の縁で観察する。

▶ 詳細を追加

番号・色・登録者・URL はここから

タイトル

場所の呼び名（例: 湿地 定点A、南斜面の群落）

位置

現在地を押すだけ。地図でピンを動かして微調整もできます

写真

その場の様子をそのまま。プランに応じて 1 件につき 1~10 枚

説明

入りかた・注意点・観察のしかたなど、次に来る人への申し送りに

ポイント番号

0~999。定点番号として使えます

色

14 色から選べます



登録者

既定は自分。共有しているマップセットではメンバーから選べます

URL

最大 5 件。調査要領や種の解説ページを紐づけておけます

色は、区域ごと・調査項目ごとに分けると読みやすくなります。「湿地の定点は青、林縁は緑」のように決めておくと、地図を開いた瞬間に見分けがつきます。

見つけた生きものを、その場で 1 件に。

ピンをタップして「+記録を追加」→ カテゴリ「目撃・発見」。種名は自由入力なので、鳥も昆虫も植物も同じように残せます。

記録 — 目撃・発見

種別（種名）	サシバ
数	2
状況・行動メモ	谷戸の上空を旋回。昨年と同じ林で営巣している可能性あり。
行動	採餌中
天候	晴れ
日時	2026/04/12 9:20
記録者	田中（既定は自分）

基本（現地で入れる）

種別（種名）	自由入力。和名でも、現地での呼び名でも構いません
数	数値。個体数をそのまま
状況・行動メモ	見たときの様子を複数行で。所見はここに残します

詳細（開くと入れられる）

性別 / 成獣・幼獣	選ぶだけ
距離 (m)	観察距離を数値で
行動	採餌中 移動中 警戒 休息 その他
天候	晴れ 曇り 雨 雪

日時の既定は「今」、記録者の既定は自分です。どちらもタップで変更できます。

痕跡は、種類と鮮度で残す。

同じ痕跡地点に続けて記録すると、その場所で何が、どの季節に動いているかが並びます。

痕跡地点「杉林の獣道」

1/18 足跡 新しい 推定種 ニホンジカ / 数 4

2/22 糞 数日前 推定種 ニホンジカ

3/15 食痕 古い 推定種 ノウサギ / 写真 2 枚

4/2 羽毛・毛 新しい 推定種 タヌキ

ピンをタップすると、その地点の記録が時系列で並びます。

痕跡の種類（選ぶだけ）

足跡 糞 食痕 爪痕・角研ぎ ぬた場 獣道 寝屋 羽毛・毛
 抜け殻・脱皮痕 死骸 その他 +自由入力

一緒に残せること

推定種 自由入力。断定できないときは「〇〇か」と書いておけます

鮮度 新しい 数日前 古い 不明

数 / 推定サイズ 数値と自由入力。足跡の大きさなどを残せます

写真 スケールを添えて撮っておくと、後から見比べられます

採集は、分類と数量＋単位で。

植物も昆虫も水生生物も、同じ 1 つのカテゴリで残せます。単位を選べるので、数え方が違ってても揃います。

記録 — 採集

分類

昆虫

植物

魚

採集物

ゲンジボタル

数量 + 単位

12

匹

採集方法

網

状態

良好

天候 / 日時

晴れ / 2026/06/08 19:40

分類（選ぶだけ）

山菜

キノコ

木の実

魚

貝

昆虫

植物

鉱物

その他

分類で「魚」「貝」を選ぶと、サイズ (cm) が基本項目に上がってきます。

入力する項目

採集物

自由入力（例: ゲンジボタル、ワラビ、ヤマメ）

数量 + 単位

個

本

株

kg

g

匹

尾

点

採集方法

手摘み

釣り

網

掘り取り

採掘

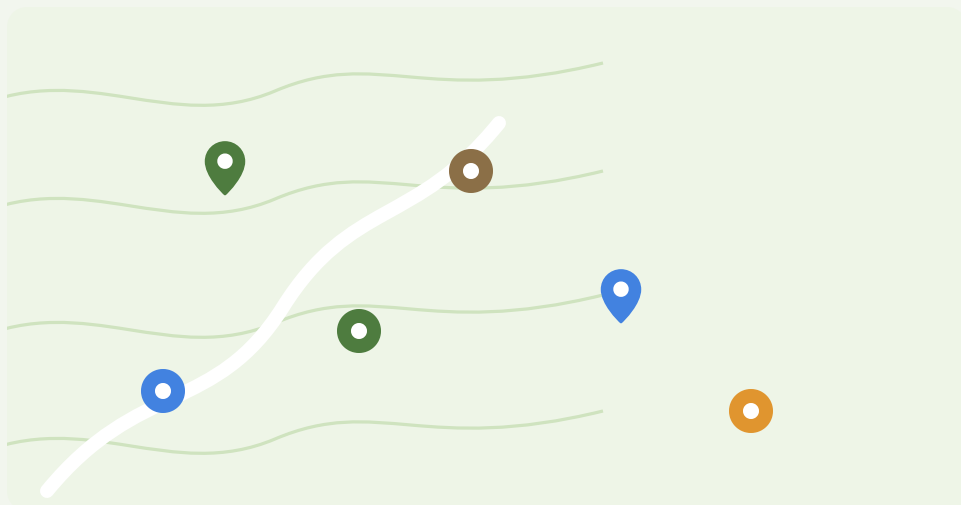
その他

状態 / 天候

鮮度・品質と、そのときの空模様

歩いていて見つけたものは、その場で 1 件。

場所を作らなくても記録できます。ホーム中央の「+」→「クイック記録」。位置は現在地が入ります。



ピン = ポイント

通う場所。記録が積み上がる



円 = クイック記録

歩きながら残した 1 件

その場で 1 件だけ残す

移動中に見つけた生きもの・痕跡・外来種を、場所を作らずに記録できます。位置は現在地が自動で入り、地図で微調整もできます。

入力する項目は同じ

目撃・発見も痕跡も採集も、ポイントから作るときと項目は変わりません。位置を入れる欄が増えるだけ。

あとからポイントに昇格できる

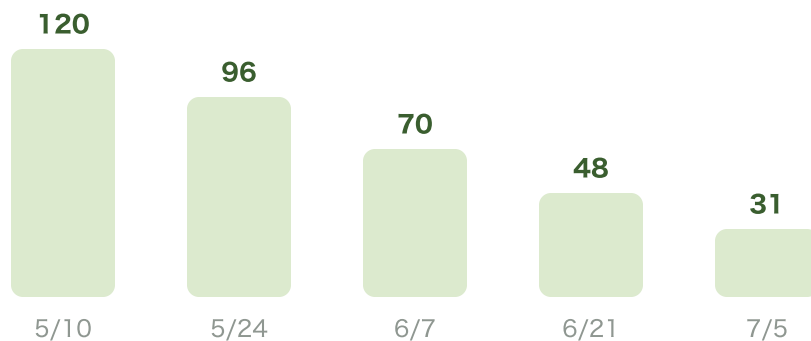
「ここは定点にしよう」と思ったら、記録の詳細画面からポイントに昇格できます。近くの既存ポイントに紐づけることもできます。

歩きながらは「クイック記録」、通う場所は「ポイント」。 帰ってから整理する流れが作れます。

防除した記録を、地点ごとに積み上げる。

外来種対応地点を置いて、実施のたびに記録を足していきます。いつ・何を・どれだけ・どう処分したかが、地点ごとに並びます。

外来種対応地点「南斜面の群落」



対象種 オオキンケイギク / 駆除方法 刈り取り
処分方法 可燃ごみ / 実施 5 回 / 合計 365 株

対象種（選ぶだけ）

アライグマ ハクビシン ヌートリア ミシシippアカミミガメ ウシガエル
 オオキンケイギク セイタカアワダチソウ その他 +自由入力

一緒に残せること

数量 数値で。株数・個体数をそのまま

駆除方法 捕獲器 銃器 手取り 刈り取り 薬剤 その他

処分方法 埋設 焼却 可燃ごみ その他

使用機材 / 備考 使った道具や、当日の人数・条件などを自由に

実施のたびに写真を付けておくと、同じ地点の変化を並べて見られます。

被害も、覚え書きも、同じ地図の上に。

⚠ 被害

食害・踏み荒らし・倒木・崩落まで、現地で起きたことを 1 つのカテゴリで残せます。

被害の分類

動物被害

人的被害

自然災害

人的災害

被害内容

自由入力（例: 湿地の植生が踏み荒らされた）

推定原因

自由入力（動物なら種名、ほかに豪雨・不法投棄など）

被害種別

農作物

林業

家畜

建物

人身

その他

被害規模

自由入力。件数は数値でも残せます

対策・処置

未対応

通報済み

防護柵設置

駆除依頼

写真を添えておくと、対策を相談するときの資料になります。同じ場所で繰り返すなら、被害地点を置いて記録を積み上げてください。

📝 メモ

分類に当てはまらないことは、メモで残します。タイトルと本文だけの汎用の記録です。日時・記録者・写真・URL が一緒に付くので、それだけで 1 件として成立します。

タイトル

木道の板が 2 枚外れている

本文

次回の作業日に補修。当面は南側から入る。

🕒 日時

📷 写真

👤 記録者

URL 最大 5 件

活動日の申し送り、設備の不具合、次回の課題。文章で残しておきたいことの置き場所になります。

写真と日時と記録者が、一緒に残る。

活動報告や助成金の報告で問われる「いつ・どこで・誰が・何を」が、1 件の記録の中に揃います。

写真

現場の様子をそのまま添えられます。1 件につきプランに応じて 1～10 枚。並び順は長押しで入れ替えられます。



+

+

日時

既定は「今」。押すだけで現在時刻が入ります。持ち帰ってから入力するときは、観察した日時に変更できます。

2026/04/12 9:20

今

タップして変更できます

記録者・登録者

記録には記録者、ポイントには登録者が残ります。既定は自分。共有しているマップセットでは、メンバーの中から選べます。

● 記録者 田中

● メンバーから選べます

URL は 1 件につき最大 5 件まで付けられます。 調査要領・種の解説・関連する報告のページを記録に紐づけておけば、後から見た人がたどれます。

電波が届かなくても、記録は止まらない。

1. 圏外でそのまま記録

ポイントも記録も、圏外で作成・編集・削除まで完結します。写真も端末に保存されます。

目撃・発見 4/12 サシバ 2

ポイント 湿地 定点A

端末に保存済み

2. 未送信の数が出る

まだ送れていない件数は、設定タブのバッジとマイページの「同期」で確認できます。

設定

未送信 3 件

3

3. 戻れば自動で送信

電波が戻ると自動で送信され、共有しているメンバー全員に届きます。手動の「今すぐ同期」もあります。

自分



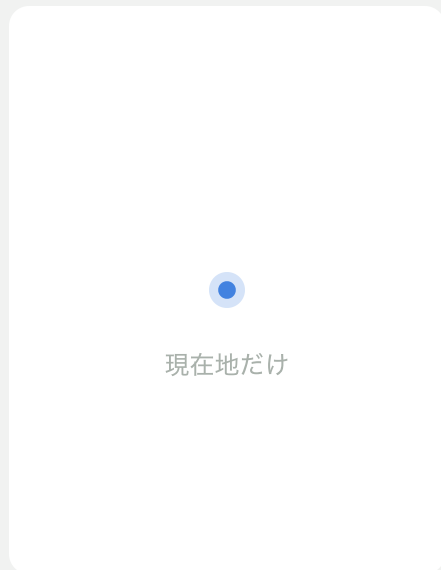
メンバーへ

注意 送信が終わる前にアプリを削除すると、未送信分は失われます。帰ってから、バッジが 0 になるまではアンインストールしないでください。

現地に入る前に、地図をエリアダウンロード。

圏外では、事前に取得していない範囲の地図は真っ白になります（現在地は出ます）。ここだけは、必ず電波のあるところで。

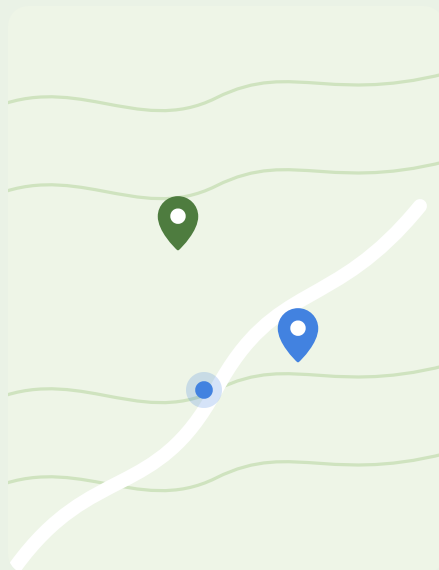
取得していない範囲



現在地だけ

地形も道も出ません

ダウンロード済みの範囲



地形も道も、置いたピンも見えます

取り込みかた

地図画面のメニュー → 「エリアダウンロード」。範囲と最大ズームを決めて開始します。通信量と時間がかかるので、**Wi-Fiのある場所で、出発前に。**

1 回のダウンロード上限

無料 / ライト / スタンダード

300 タイル

プレミアム

1,500 タイル

最大ズームを 1 段上げると、同じ面積でもタイル数は約 4 倍。 入る場所だけ細かく、周辺は粗く。回数を分ければ範囲は広がられます。

観察会やモニタリングの下見のときに、当日歩く範囲をまとめて取り込んでおくと安心です。

同じ地図を、全員で見える。

マップセットを共有すると、誰かが置いた地点も、撮った写真も、書いた記録も、参加者全員に届きます。



1 マップセットにつき 200 人まで

会員・ボランティア・調査員をまとめて招待できます。招待コードで参加してもらう仕組みです。

閲覧だけの人と、編集できる人を分けられる

記録を書く人と、地図を見るだけの人を権限で分けられます。参加してすぐの人は閲覧から始める運用もできます。

誰が書いたかが残る

記録には記録者、ポイントには登録者が入ります。参加者が多くても、後から「誰の記録か」をたどれます。

手分けするときは担当を分ける

同じデータを 2 人が同時に編集したときは、後から届いた方が残ります。区域や調査項目で担当を分けておくと安全です。

オンライン 招待コードの発行・受諾、権限の変更は電波のあるところで。

担当が替わっても、地図ごと引き継げる。

マップセットごと渡す

共有したままにしておけば、次の担当者は地点の位置・写真・記録の履歴をそのまま引き継げます。引き継ぎ用の資料を別に作る必要はありません。



対面で渡したいときは、マップセットをファイルに書き出して受け渡すこともできます（写真も一緒に入ります）。

入れ替わりが多くても続く

参加者の出入りがあっても、地図とその中身は団体の側に残ります。新しく入った人は、招待されればその日から同じ地図を見られます。



参加者が抜けたあとも、地図に残った記録はそのままです。次の年度は新しいマップセットを作って、同じメンバーを招待し直す運用が分かりやすくなります。

たまった記録を、そのまま集計に回せる。

スタンダードプラン以上

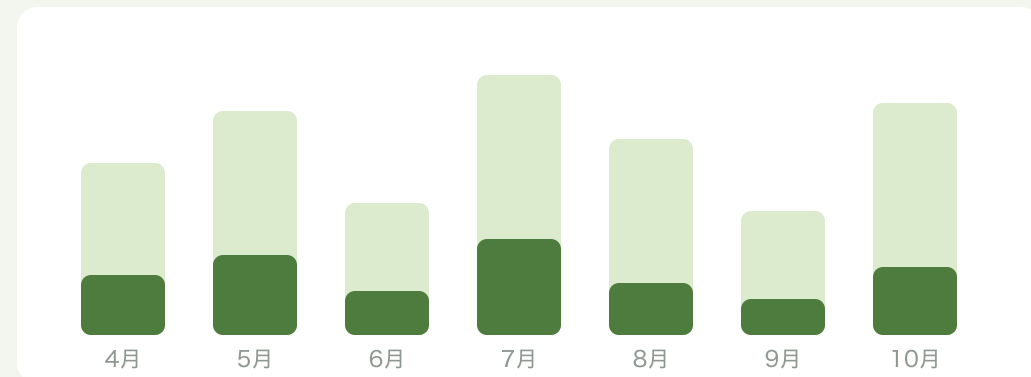
分析ダッシュボード

今年度

目撃・発見

痕跡

外来種駆除



↓ CSV 書き出し

↓ PDF 書き出し

↓ 画像 書き出し

CSV は、記録に紐づく写真を同梱した ZIP でも出せます

横断して集計できる

マップセット・ポイント・記録を横断して集計できます。期間やカテゴリで絞り込めるので、年度ごと・調査項目ごとに見え方を変えられます。

手で数えずに出せること

今年度の目撃件数

地点ごとの記録数

防除した数量の合計

月ごとの推移

誰が何件記録したか

書き出せるのは **CSV / PDF / 画像**です。活動報告や助成金の報告に使う数字を取り出して、報告の書式に合わせて使ってください。

写真も一緒に渡したいときは、写真を同梱した ZIP で CSV を書き出せます。

調査区域や年度で、マップセットを分ける。

1 つのマップセットに入る量には上限があります。はじめから分けておくと、集計も引き継ぎもきれいに切り替わります。

区域で分ける



湿地エリア



水辺エリア



林縁エリア

年度で分ける

2025年度

地点 38 / 記録 291
そのまま残ります

2026年度

地点 42 / 記録 318
いま使っている地図

2027年度

次に作る

年度で区切っても、去年の地図はそのまま読み返せます

1 マップセットあたりの上限

ポイント（場所）	500
記録	3,000
共有メンバー	200 人

定点が増えてきたら区域で、記録が増えてきたら年度で。分けておくと、集計するときに欲しい範囲だけを取り出せます。

年度で分けるときのコツ

地点の呼び名と番号を前の年度と揃えておくと、同じ定点として並べて見られます。

作れるマップセットの数はプランによって変わります。

消しても戻せる。誰が記録したかも残る。

● 1 件がこの端末にだけ残っています

確認

最近削除した項目

削除から 30 日以内なら戻せます



調査地点 St.3

ポイント ・ 削除 8/3 21:03 ・ あと30日

戻す

調査地点 St.3

最終更新 鈴木 ・ 8/3 14:20

誤削除は 30 日以内なら戻せる

ボランティアや新しい会員が誤って消しても取り返せます。調査データが失われません。

ほかに変わったこと

編集者は、みんなの地点を直せる

担当が交代しても、現地に行った人が位置や内容をその場で直せます。

「最終更新 ○○」で記録者が分かる

誰がいつ直したかが残ります。活動報告や助成金の報告の裏づけになります。

保存できなかったら赤い帯で知らせる

権限や上限で断られた場合、理由と対処が出ます。入力内容は残るので送り直せます。

現地でやることは、3 つだけ。

- 01 通う場所は、その場でポイントを置く。位置は「現在地」を押すだけ。
- 02 見つけたものは、目撃・痕跡・採集・外来種駆除から選んで 1 件に。
- 03 歩いている途中のものは、クイック記録。あとからポイントに昇格できます。

入る前に、メンバーの招待と地図のエリアダウンロードだけ済ませておく。

あとは圏外でも記録は残り、電波が戻れば全員に届きます。写真と日時と記録者が一緒に残るので、活動報告の裏づけとしてそのまま書き出せます。